平成３０年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【札幌市】

１ 実践テーマ	【　Ⅰ　】
２ 実施対象者	札幌市立澄川小学校 第３学年　78名
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（　特別活動　） ② 行事名（　　　　　） ③ その他（　　　　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　　　　） ② その他　（　　　　　）
４ 目標 （ねらい）	冬のスポーツに触れ、そのよさをまとめ、発表し合うことで、成就感や達成感を味わうとともに、自己の成長を振り返り、自己を伸ばそうとする意欲をもつ。
５ 取組内容	○指導計画【3時間扱い】 ・冬のスポーツやオリンピックのことについて、知っていることや知りたいことを交流し合う。（1時間） ・オリンピックミュージアムにて、見学や体験をしたり、実際に競技をされている方の体験談をきいたりする。（2時間） ○取組の様子 ・リフトに乗り、スキージャンプ台の上からの景色を見て、その迫力を体感した。

	・元オリンピック選手の小笠原さんの話を聞き、オリンピックでの体験や日々のトレーニングについて教えていただいた。 ・オリンピックミュージアム内の施設を探索し、歴史ある物に触れたり機械を使用し体験活動を行った。
６　主な成果	・スキーのジャンプ台の高さを実感的に学ぶことで、ジャンプ選手のすごさを知り、憧れをもつことができた。 ・あきらめずに努力し続けることで夢をつかんだお話を聞いて、努力することの大切さを実感した。 ・冬のスポーツに親しみ、関心を広げることができた。
７　実践において工夫した点	予備知識をもってオリンピックミュージアムに見学に行ったことで、体験活動をするときの意欲が高まった。
８　主な課題等	・札幌市の全小学校で取り組むことを考えると、札幌市の教育課程編成の手引に位置付けるとよい。 ・館内の待機スペースが狭く感じた。人数を減らすなど工夫が必要。 ・施設内を１００人で見学すると全て体験できない子がでてきた。体験できる時間の工夫が必要である。 ・この体験と学校での現地学習などを組み合わせて行うことができるよう計画できるとよい。
９　今後の取組について	今回の実践を基に、次年度も３年生を対象に実施していく方向で進めたい。